

ベースライン（アマモ場）

根拠1-1.

三河湾では、1998～2004（平成10～16）年度に、中山水道航路整備事業から発生した浚渫土砂を用いて、干潟・浅場造成及び覆砂の環境改善事業が行われた。西浦地区、形原地区においても干潟・浅場が造成され、造成箇所では2007（平成19）年より当該プロジェクトの活動を開始した。

西浦地区では下の航空写真に示すように、2006（平成18）年には造成により干潟、浅場が形成され、1996（平成8）年と地形が異なっていることが分かる。また、干潟の前面に干潟の地形変化を安定化するための島式の消波工の設置もされている。これらのことから、プロジェクト開始（1997（平成9）年）以前は地形的にアマモ場等が生育できる環境が当該地区になかったと推測される。



撮影年月日：1996（平成8）年1月12日
干潟・浅場造成前



撮影年月日：2006（平成18）年5月25日
干潟・浅場造成後

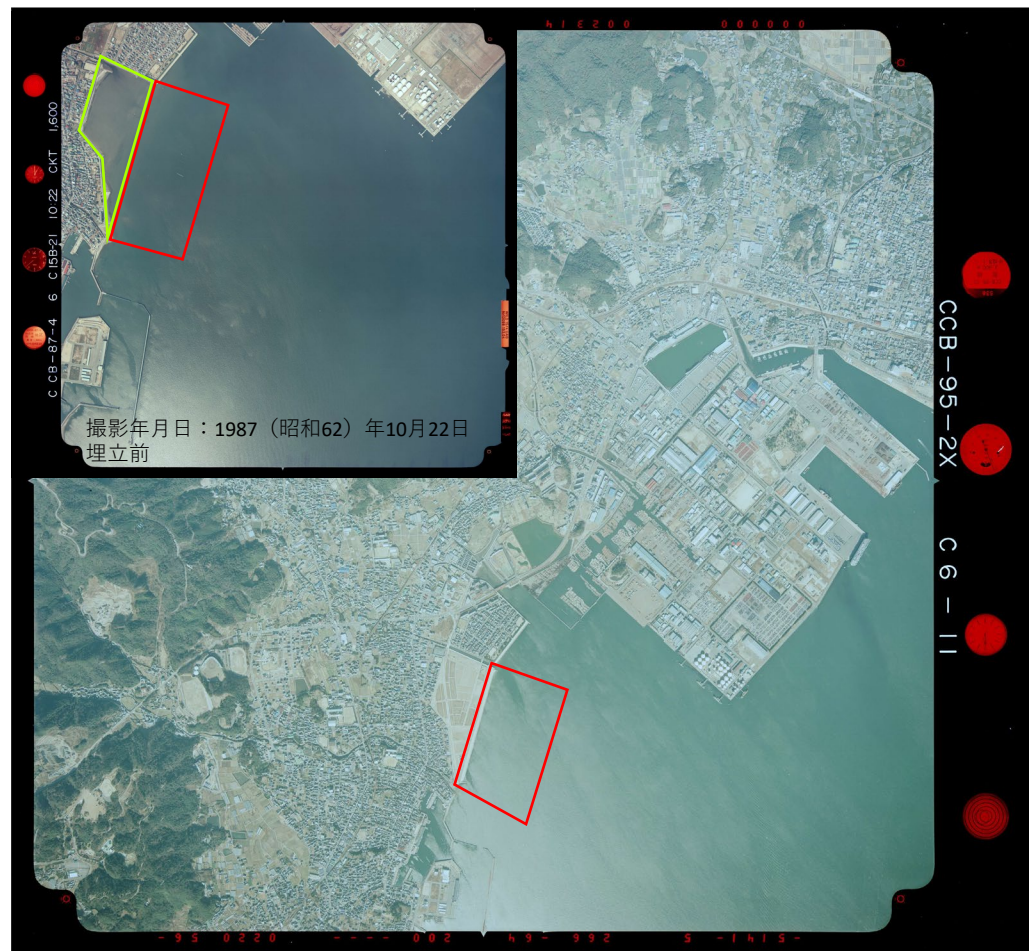
ベースライン（アマモ場）

根拠1-2.

形原地区では下の航空写真に示すように、2006（平成18）年には防波堤を設置したうえで干潟、浅場が形成されており、1996（平成8）年の造成前は浅場が全くなかったことが分かる。

さらに以前の1987（昭和52）年の航空写真では干潟・浅場造成箇所よりさらに内側も海となっていることから埋め立てされたことが分かり、周囲の地形が大きく変化している。

これらのことから、プロジェクト開始（1997（平成9）年）以前は地形的にアマモ場等が生育できる環境が当該地区になかったと推測される。



撮影年月日：1996（平成8）年1月12日
干潟・浅場造成前



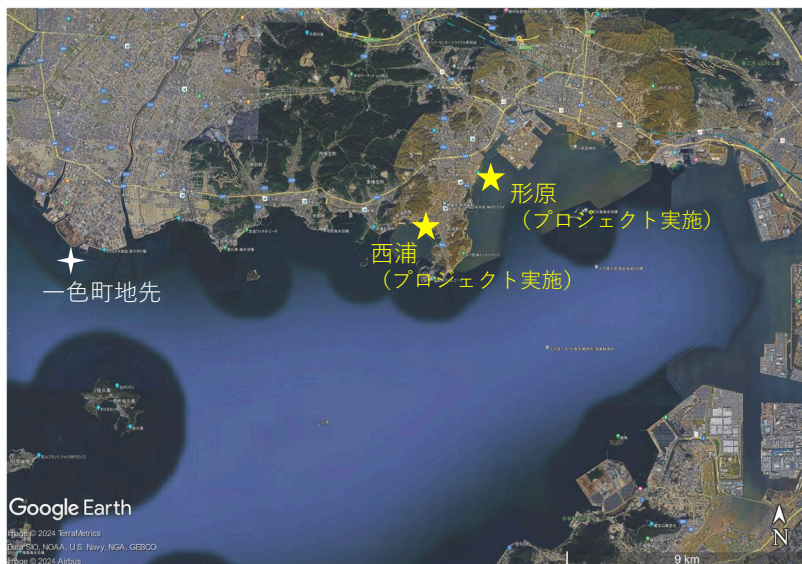
撮影年月日：2006（平成18）年5月25日
干潟・浅場造成後

ベースライン（アマモ場）

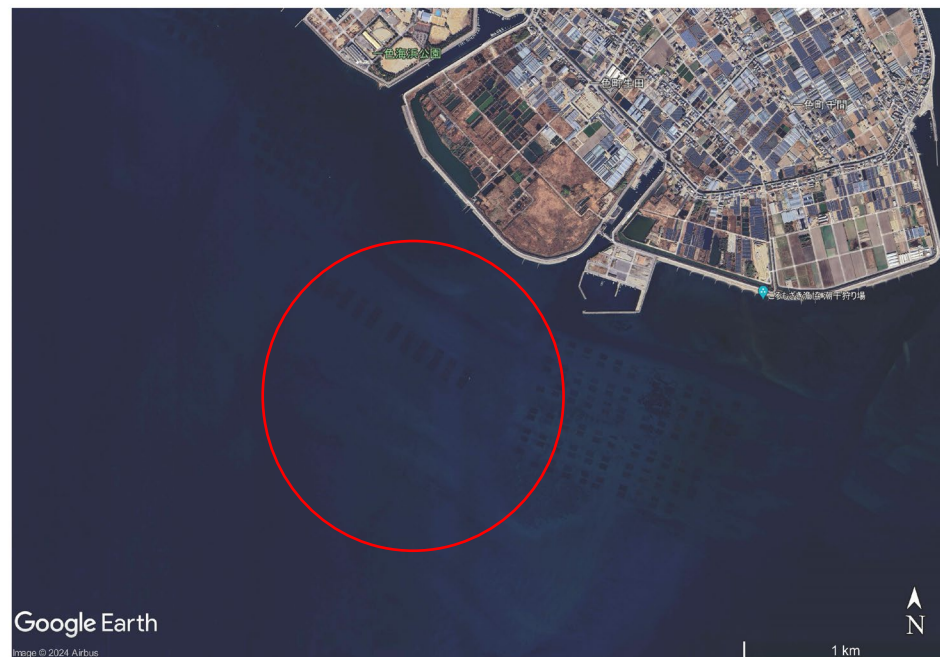
根拠2.
プロジェクト開始（1997年）前のベースライン根拠として、阿知波，2009による三河湾におけるアマモ場面積の変動に関する論文において、1941年以前は三河湾で101.4平方キロメートルが確認されていたアマモ場が1995-1996年には3.4平方キロメートルと約96.6%が消失していることが示されている。また2000～2001年に三河湾に残る比較的大きなアマモ場は、一色町地先と田原市福江湾付近のみとされ、蒲郡はあげられてない。また、コアマモに関しては、蒲原ほか，2015による論文において、三河湾全体における分布範囲は確認されていないとされている。

根拠3.
活動を行わなかった場合のアマモ場の推移の根拠として、阿知波，2009による論文において2000～2001年に比較的大きなアマモ場として残るとされていた一色町地先について、2014年の航空写真（右上図）では、アマモ場等と推定される画像が確認できるが、2024年の航空写真（右下図）では確認できない。当該地域は保全活動は実施されておらず、アマモ場等の消失が推定される。

根拠1、2、3よりベースラインは干潟・浅場造成前とし、蒲郡形原・西浦地区ではプロジェクト以前はアマモ場・コアマモ場はなく、プロジェクトの活動によりアマモ場・コアマモ場が維持・回復していると推察されるところから、ベースライン0とする。



2014年3月17日 一色町地先 航空写真（GoogleEarthより）



2024年1月14日 一色町地先 航空写真（GoogleEarthより）